

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(3ヶ月以上1年未満)

2018年3月7日

東京大学での所属学部・研究科等:	教育学研究科	学年(プログラム開始時):	博士2
参加プログラム:	全学交換留学	派遣先大学:	ソウル大学校
卒業・修了後の就職(希望)先:			
<input checked="" type="checkbox"/>	1. 研究職	<input type="checkbox"/>	2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
<input checked="" type="checkbox"/>	3. 公務員	<input checked="" type="checkbox"/>	4. 非営利団体
<input type="checkbox"/>	5. 民間企業(業界:)	<input type="checkbox"/>	6. 起業
<input type="checkbox"/>	7. その他()		

派遣先大学の概要

韓国の首都ソウルに位置するソウル大学校は、韓国の中でもトップクラスのランクを誇る大学である。校内はとても広く、私が在籍していた教育学部は、比較的在学生寮から近い位置にあった。

留学した動機

博士学位論文の主題が、「韓国社会における子育てを中心とした地域づくり」であるため、現地での資料・データ収集および、関連領域の学会・授業への参加を通して、主題の背景にある韓国社会を肌を持って理解するため。

留学の時期など

①留学前の本学での修学状況:	2017年	博士1	年生の	A2	学期まで履修
②留学中の学籍:	留学				
③留学期間等:	2017年	2月~	2017年	12月	
	博士1	年時に出発			
④留学後の授業履修:	2018年	博士3	年生の	S1	学期から履修開始
⑤就職活動の時期:	2019年	博士4	年生の	4月頃に	行う予定
⑥本学での単位数:	留学前の取得単位			12	単位
	留学先で取得し、本学で単位認定申請を行う単位			2	単位
	留学後の取得(予定)単位			8	単位
⑦入学・卒業/修了(予定)時期:	2016年	4月入学	2019年	3	月卒業/修了
⑧本学入学から卒業/修了までの期間:	3年		ヶ月間		
⑨留学時期を決めた理由:					

博士学位論文の主題を韓国社会をテーマにしたことから、博士入学時より課程在籍中に1年は現地生活を通しての調査・研究を予定していた。

留学の準備

①留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

大体のやり取りはメールで円滑に進める事ができたが、細かな事項などで日本から電話をかけて直接担当者と話すことも多少あった。寮の申請や留学許可書などのやりとりは、余裕を持って行うことをお勧めしたいです。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

ビザはD-2の留学ビザを申請しました。申請時に書類がきちんと揃っていれば、申請が下りるまでの期間は大体1週間くらいでした。これも不足書類などを想定して、早めに準備を成されることをお勧めします。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

大学内のトラベルクリニックで必要な予防接種、検査は円滑に進める事ができました。全般的に韓国は薬が少し強いと個人的に感じているので、風邪薬や常備薬は日本からなるべく持って行って、現地の薬は病院にかかった時のみ服用していました。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

大学で留学時に加入が義務のため、その保険に加入しました。それ以外には加入していませんが、もともと国内用に入っていた保険が海外にも適用されるものであったので、安心して受診できました。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

教育学研究科に留学許可願を提出しました。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)

韓国語能力試験6級。会話や授業、文章作成ができる。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

常備薬や女性の場合ですと衛生用品などは、日本から持って行ったものをよく使っていました。私は現地の食事で困ることはなかったのですが、日本食が恋しくなる時もあるので、フリーズドライの味噌汁や雑炊を送ってもらっていました。

学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合)

※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったもの(又は行う予定のもの)に●をつけてください。

授業科目名	単位数	単位認定の申請	授業科目名	単位数	単位認定の申請
平生教育学研究	3	●			
学習社会・教育システム	3				
南北関係論	3				
平生教育方法論	3	●			
論文指導					

②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)

授業は1回の授業が大体3時間くらいあって、正直とてもハードでした。予習として課題が提示されることもあるのですが、読んでくる文献の量が多い授業も多く、一週間ずっと英語を読んでいる時期もありました。専門の社会教育・平生教育の授業(平生教育学研究)は、予習の段階で発表原稿を作成し、学生たちの発表で毎回の授業が進められる事が多く、一般的な講義よりも議論が活発で、とても楽しかった。

③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など

前期:受講申請をした授業は3つ、聴講で参加した授業は2つでした。韓国は一回の授業が3時間(あるいは週で分けて行われる授業もある)あるので、一つの授業でもらえる単位は3単位です。前期は、授業を欲張って取りすぎたため、途中から現地の学生のペースについていけなくなっていました。毎日授業後に研究室に行って、その次の授業の予習をしたり課題をしたりでした。後期:受講した授業は1つ。前期の反省から、自分の自由な時間、個人研究に当てる時間を意識的に増やした。

④学習・研究面でのアドバイス

自分のペースをどれだけ早くつかむ事ができるか、というのが鍵だと思います。授業で得られる知識だったり、会える友達もいるので、授業も大切にしつつ、個人の研究をしっかりと進められるように意識を持るといいのではないかと思います。学内の図書館、自習室、インターネット、研究の環境としては本当に素晴らしかったです。

⑤語学面での苦労・アドバイス等

以前にも1年間学部生時代に留学していたこともあり、日常会話や授業を受けることにおける苦労はなかったが、長文のレポート作成や、学術的な用語を授業の討論で使う場面では苦労する事が多かった。特に目上の人への尊敬語、謙譲語などの使い分けに最初は苦戦した。専門用語などのリスニングは、時間が経てば自然と慣れて行くので、最低限文章を読めば意味がわかるくらいのレベルだとなんとかついて行くことはできる。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

学内の寮を申請し、入寮した。家賃は月に19万ウォン。二人部屋の寮もあるのですが、私が住んでいたのは一人部屋でした。トイレ、シャワー、洗濯機、乾燥機は共用でした。部屋の中にあつたものは、ベッド、机、クローゼット、整理ダンスです。洗濯は外に干せないの、室内干しか乾燥機を利用していました。入寮時に、大学の近くで布団を調達するのに苦労しました。ソウル市内の大型スーパーで予め用意しておく事が良いかと思います。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

基本的には春夏秋冬がある点など日本と類似していますが、冬ほどにかく乾燥して寒いです。冬のアウターは現地で調達することをお勧めしたいです。大学の周辺は、バスで最寄り駅まで行くと飲食店や商店街、スーパーなどがあります。基本的には大学から出なくても、学内のスーパーやコンビニ、食堂などで生活する事が可能です。クリーニング屋やカラオケも学内にありました。食事は自炊をするスペースや共用の冷蔵庫もありましたが、私は学内の食堂を利用する事が多かったです。交通機関は、日本よりも料金が安いので、地下鉄、タクシーともによく利用しました。自転車は学内では坂道が多いため使っている人はほぼいませんでした。学内にはバスが通っているの、便利でした。お金は日本から最初韓国に行くときに現金を持って行って、現地で換金、通帳に入れて保管していました。一時帰国することもありましたので、その都度いただいていた奨学金を下ろして持ってくるなどしていました。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

ちょうど北朝鮮がミサイルをよく打っていた年でしたが、それ以外には特に危険だと思う部分はありませんでした。万が一遅く出発く場合には、一人ではなく複数人で、という点程度を注意されれば良いのではないかと思います。病院については、学内に保健センターがあり、そこで風邪や軽度の病気、怪我は解決するので、外の病院にかかる必要はないかなと思います。個人的に健康管理で気をつけていたのは、天気にはテンションを左右されないということです。特に冬は空気が冷たくどんよりしているので、気分も鬱々としてしまうこともありました。

④留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

・毎月の生活費とその内訳

大体約8万円(奨学金でカバーできていました。) 家賃 * 1.9万円, 食費 * 2万円, 交通費 * 0.5万円, 書籍代 * 1万円, 娯楽費 * 1万円, その他雑費 * 0.5万円, 通信費 * 1万円

・留学に要した費用総額とその内訳

生活費 * 8万円 × 12 = 96万円, 保険料 * 約12万円, 航空賃 * 約6万円 計 * 114万円

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

JASSOの奨学金を受給していました。月額7万円。留学申請時に大学からのお知らせで知りました。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

寮に入っていると、他の寮生のとの交流プログラムや学期に一、二度大講堂での文化プログラム(演劇鑑賞、クラシック音楽鑑賞)などに参加する事ができる。週末の過ごし方は、余裕があるときは友人と出かけたり、観光をしたりして楽しんでいました。長期休暇時には、院生が主催する勉強会に参加したり、ソウルから少し離れた地方へ1泊2日程度で旅行を楽しんだりもしました。

派遣先大学の環境について

①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

希望する学生には、現地学生のメンターがつく制度がある。また、留学開始時には留学生向けのオリエンテーションがあり、外国人登録証の申請や緊急時の連絡先など丁寧に説明があった。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

図書館はとても広く、蔵書も多い。自習のための席も多く、予約をすれば継続して3時間ほどは席を確保する事ができる。またグループ自習室やマルチメディア自習室も充実している。映画などをみる事ができる部屋もある。食堂はどこも安くて比較的美味しい。ただ味が濃い食堂もある。スポーツ施設は、寮に併設して2箇所、大学の正門近くに一つある。寮に併設しているジムは、比較的良心的な価格設定。パソコン環境は、学内はとても良かったのだが、寮では最後まで満足に使う事ができなかった。パソコンがMacなのも理由なのかもしれないが、なかなか相性がよくなかった。

留学と就職活動について

①(就職活動を既に行った場合)留学が就職活動に与えた影響、メリット・デメリットなど

まだ行っていません。

②(今後就職活動を行う場合)留学が就職に対する考え方に与えた影響

前の留学の時も、今回の留学の時もそうでしたが、とりあえず何か行動してみよう、行動してから考えよう、という考え方がより強くなりました。また韓国という社会の中で働くということへの興味、日本を離れてでももし縁があるのなら就職を考えたいという思いも、今回の留学で持つようになりました。

③留学中の就職活動への対策など(もしあれば)

韓国社会についての理解を深めるために、自分の専門外の授業にも積極的に参加し、幅広い知識を得ることを心がけた。

④就職が決まっている場合は、差し支えない範囲で就職先をお知らせください

- | | |
|--|--------------------------|
| | 1. 研究職 |
| | 2. 専門職(法曹・医師・会計士等)(職名:) |
| | 3. 公的機関(機関名:) |
| | 4. 非営利団体(団体名又は分野:) |
| | 5. 民間企業(企業名又は業界:) |
| | 6. 起業(分野:) |
| | 7. その他() |

留学を振り返って

①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

日本にいる時よりも、自分自身について考える時間がたくさんありました。もちろん日本にいる時も、自分だけの時間というものはありませんでしたが、日本よりも少し自由な身での海外生活の中で、自分の長所だったり短所だったりをごと考える時間が多く、それは日常生活の様々な場面で悩み、その悩みを自分自身で解決していかなければならない事が多かったためだと思います。自分で自分自身を超えて行くというプロセスを1年間のあらゆる場面を通じて経験し、悩むことも多かったですが、そういった面では、国内にいる時よりも「自分ってどういう人間なんだろう」という部分を深く考える事ができ、少しは成長できた部分もあるのではないかと思います。

②留学後の予定

今後1年間は、単位取得のために授業に出るのと、留学の成果を論文としてまとめる予定です。その後は博士論文の執筆をしつつ、就職活動をしていこうと考えています。

③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

「思ったら吉日」という言葉がありますが、留学はまさにその文言にぴったりのものだと思います。少しでも興味があるのであれば、その思いをエネルギーに変えて、ぜひ外国での様々な経験を味わって欲しいなと思います！勉強や研究以外にも、日々の生活の中で本当にいろいろな気づきがあり、良くも悪くも自分のこれまで知らなかった姿や長所、あるいは短所が見えてきます。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

Webページ:コネスト(<https://www.konest.com>)

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(3ヶ月以上1年未満)

年 月 日

東京大学での所属学部・研究科等:	人文社会系研究科	学年(プログラム開始時):	博士3
参加プログラム:	全学交換留学	派遣先大学:	ソウル大学校
卒業・修了後の就職(希望)先:			
<input checked="" type="checkbox"/>	1. 研究職	<input type="checkbox"/>	2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
<input type="checkbox"/>	3. 公務員	<input type="checkbox"/>	4. 非営利団体
<input type="checkbox"/>	5. 民間企業(業界:)	<input type="checkbox"/>	6. 起業
<input type="checkbox"/>	7. その他()		

派遣先大学の概要

韓国における最高学府。各分野において国内トップレベルの教員がおり、質の高い教育を受けることができる。また、山の中に立地しており、研究に集中することができる。

留学した動機

研究のため。具体的には、韓国歴史学会の現状を把握すること、研究における人脈を形成すること、史料調査である。

留学の時期など

①留学前の本学での修学状況:	2016年	博士2	年生の	冬	学期まで履修
②留学中の学籍:					
③留学期間等:	2017年	9月~	2018年	8月	
	博士3	年時に出発			
④留学後の授業履修:	2019年	博士4	年生の	冬	学期から履修開始
⑤就職活動の時期:	年		年生の		月頃に
⑥本学での単位数:	留学前の取得単位		28	単位	
	留学先で取得し、本学で単位認定申請を行う単位			単位	
	留学後の取得(予定)単位			単位	
⑦入学・卒業/修了(予定)時期:	2013年	4月入学	2020年	3月卒業/修了	
⑧本学入学から卒業/修了までの期間:	7年		ヶ月間		
⑨留学時期を決めた理由:					

日本で査読論文を作成するなど、少しではあるが自分の学問ができ、韓国の学問を受動的に受け入れるだけでなく、自ら批判的に思考することもできるようになったと思ったから。

留学の準備

①留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

ソウル大からの指示に従い期日までに手続きを進めれば特に問題ないと思います。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

ビザの種類はD-2-6(交換留学)です。申請先は駐日韓国大使館です。書類提出後は三日程度で発給してくれますが、さまざまな書類が必要となるので早めに準備することが大事だと思います。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

韓国の薬は効果が強すぎるというようなことを聞いたことがあったので、風邪薬等は多少持っていきました。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

大学からの指示に従って、東京海上日動の海外旅行保険に加入しました。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

留学許可願を提出しました。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)

国史学科では韓国語能力試験5級以上が要求されていたため、同試験で6級をとりました。5年ほど前にすでに取得していましたが、有効期限が切れていたため再取得しました。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

一人暮らしをするのであれば、調味料類を持っていくとよいかもしれません。ソウルの百貨店や大型スーパーにいけば、日本の食料品も多く売られています。高いので必要だと思うものは買っていくとよいでしょう。

学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合)

※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったもの(又は行う予定のもの)に●をつけてください。

授業科目名	単位数	単位認定の申請	授業科目名	単位数	単位認定の申請
韓国経済史特講	3	●			
朝鮮時代史通論	3	●			

②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)

毎週単行本一冊程度の研究書を読み、それをもとに討論します。毎週討論文をA4で1枚程度書くことが必要であるため、一つ授業を受講するだけでも大変でした。そのほかにも現地の指導教員が開催するセミナーに参加し漢文を読みましたが、細かい内容よりも分量を読むことを重視するスタイルでした。

③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など

1学期あたり1科目3単位でした(1科目3時間)。そのほかに週に1度セミナー(2時間)に参加しました。学期中は毎週予習のためにほとんどの時間を割いてしまい、それ以外の研究時間は休日に多少行うことができる程度でした。

④学習・研究面でのアドバイス

韓国では、日本に対する関心も高く、日本史との比較などについて多くの質問を受けました。自国についてきちんと説明できると喜ばれますし、自分の視野を広げることにもつながると思います。韓国にいるからということで、韓国にのみ関心を持つのではなく、広い視野で研究するとよいかもしれません。

⑤語学面での苦労・アドバイス等

指導教員が方言を使う方だったので、はじめのうちは苦勞しました。また、セミナーでは16世紀の漢文を読んでいたのですが、そこで出てくるさまざまな単語を聞き取るとは最後まで困難でした。ただし、セミナーが始まる前にきちんと予習をして出てきそうな単語をしっかりと覚えておくと、授業についていきやすくなります。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舍の様子、見つけた方法など)

ワンルームに住んでいました。家賃は約4万円(保証金約100万円)で、そのほかに管理費がかかります。広くはないですが、キッチン・洗濯機・冷蔵庫・シャワー・冷房などがついていたので不便はありませんでした。現地の知り合いに頼んで一緒に探してもらいました。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

留学期間中は記録的な寒さ(-20°C近く)とソウルでの観測史上最高気温(39°C)に苦勞しました。大学は山の上にあります。ソウル大入口駅までのバスが出ており、駅周辺には日本食を食べられるお店も多く食事には苦勞しません。自分は大型スーパーの宅配サービスで食料品を購入し、自炊することが多かったです。お金は基本的に現金(日本円)を持参し現地で両替しましたが、LinePayの海外送金も利用しました。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気がつけた点など)

治安はよいですが、車の運転は荒いので注意が必要です。病院に行くことはありませんでしたが、薬局は多くあるので何かあると利用していました。

④留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

・毎月の生活費とその内訳

家賃:45万ウォン(管理費込)、光熱費:2万ウォン、通信(simカード):2万5千ウォン、食費:30万ウォン、交通費:2万ウォン、交際費(飲み会等):10万ウォン、その他(服など):5万ウォン

・留学に要した費用総額とその内訳

航空券代:10万円、文献購入:5万円、踏査(フィールドワーク):5万円

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

松下幸之助記念財団から毎月14万円の支給を受けていました。先輩からの紹介で知りました。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

マラソン大会に何度か参加しました。週末は研究会等がなければ、自分の研究を進めるようにしていました。長期休暇中は地方に行って史跡や博物館を見学するようにしていました。

派遣先大学の環境について

①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

ソウル大の学生は親切で、助けを求めれば韓国語のチェックなど助けてくれます。また、授業では発表の分担を多少減らしてもらうこともありました。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

中央図書館のほかに、各学部や学科に図書館があります。奎章閣という研究機関には朝鮮時代の史料などが多数あり、歴史研究者にとってはこの上ない環境です。スポーツ施設はジムやプールなどがありますが、月単位での契約が必要です。食堂は複数あり、全体的に安いです。一方で、教職員用の食堂は質の高い食事ができます。PC環境は、学内にWIFIが多数飛んでおり、不便することはないです。

留学と就職活動について

①(就職活動を既に行った場合)留学が就職活動に与えた影響、メリット・デメリットなど

就職活動は行っておりません。

②(今後就職活動を行う場合)留学が就職に対する考え方に与えた影響

日本と同様に韓国でも研究職への就職が難しくなっています。それだけに若い時にしっかりと論文を作成するなど準備をしなければならないと感じました。

③留学中の就職活動への対策など(もしあれば)

特にありません。

④就職が決まっている場合は、差し支えない範囲で就職先をお知らせください

- | | |
|-------------------------------------|--------------------------|
| <input checked="" type="checkbox"/> | 1. 研究職 |
| <input type="checkbox"/> | 2. 専門職(法曹・医師・会計士等)(職名:) |
| <input type="checkbox"/> | 3. 公的機関(機関名:) |
| <input type="checkbox"/> | 4. 非営利団体(団体名又は分野:) |
| <input type="checkbox"/> | 5. 民間企業(企業名又は業界:) |
| <input type="checkbox"/> | 6. 起業(分野:) |
| <input type="checkbox"/> | 7. その他() |

留学を振り返って

①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

日本にいと、韓国について多くの報道や体験談を聞くことができます。しかし、実際に行ってみないとわからなかった部分、思っていたものと異なっている部分が多くありました。現地に行くと現地の人とさまざまな交流をすることで得たものは非常に大きかったと思います。

②留学後の予定

博士論文執筆に向け本格的に準備を始めたいと思います。

③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

韓国では、大学や学部によって雰囲気が大きく異なります。自分の留学目的をよく考えたうえで留学先を選ぶことが最も重要なことだと思います。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

コネスト(<https://www.konest.com/>)というページが役に立ちました。留学体験談や生活におけるさまざまな情報が掲載されています。

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

特にありません。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(3ヶ月以上1年未満)

2019年 2月 19日

東京大学での所属学部・研究科等:	人文社会系研究科	学年(プログラム開始時):	博士1
参加プログラム:	全学交換留学	派遣先大学:	ソウル大学校
卒業・修了後の就職(希望)先:			
<input checked="" type="checkbox"/>	1. 研究職	<input type="checkbox"/>	2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
<input type="checkbox"/>	3. 公務員	<input type="checkbox"/>	4. 非営利団体
<input type="checkbox"/>	5. 民間企業(業界:)	<input type="checkbox"/>	6. 起業
<input type="checkbox"/>	7. その他()		

派遣先大学の概要

ソウル大学校人文大学国語国文学科

留学した動機

ソウル大学校人文大学国語国文学科は言うまでもなく韓国語学の研究の中心であり、最先端の授業を聞けるため。また、研究のために必要な資料を数多く所蔵しているため。

留学の時期など

①留学前の本学での修学状況:	2018年	博士1	年生の	A2	学期まで履修
②留学中の学籍:	留学				
③留学期間等:	2018年	2月~	2019年	2月	
	博士1	年時に出発			
④留学後の授業履修:	2019年	博士3	年生の	S1	学期から履修開始
⑤就職活動の時期:	年		年生の		月頃に
⑥本学での単位数:	留学前の取得単位			6	単位
	留学先で取得し、本学で単位認定申請を行う単位			6	単位
	留学後の取得(予定)単位				単位
⑦入学・卒業/修了(予定)時期:	2017年	4月入学	2020年	3月卒業/修了	
⑧本学入学から卒業/修了までの期間:		年		ヶ月間	
⑨留学時期を決めた理由:					

指導教員と話し合いの結果。

留学準備

①留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

ビザ D2

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

学内で実施される春の健康診断の結果は発行日が3か月以内でないため留学先大学に提出できない。
再度受診する必要あり。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

付帯海学

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

特になし。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)

出発前の語学レベル:TOPIK6級

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

風邪薬

学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合)

※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったもの(又は行う予定のもの)に●をつけてください。

授業科目名	単位数	単位認定の申請	授業科目名	単位数	単位認定の申請
訓民正音特講	3	●			
韓国語形態論演習	3	●			

②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)
復習, 授業内での発表準備。 授業とは別の勉強会の勉強。 学会発表および投稿論文の準備。
③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など
履修1教科, 聴講2教科 学習, 研究時間 : 10時間/日
④学習・研究面でのアドバイス
特になし。
⑤語学面での苦勞・アドバイス等
特になし。
生活について
①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)
大学院生寮。 新築1人部屋, シャワーとトイレ付 約3万円/月
②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)
最寄り駅までバスで15~30分。 食事はほぼ3食学食。 パスポートのみで口座開設可能銀行有。
③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
pm2.5, 大気汚染。
④留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
・毎月の生活費とその内訳
15万前後。 寮費 3万円, 食費 5万円, 携帯電話料金 5千円, 交通費 7千円, 資料購入費 3万円, その他 2万円。
・留学に要した費用総額とその内訳
200万円。 往復航空賃 5万円, 寮費 36万円, 食費 60万円, 交通費 10万円, 本購入費 30万円 出張費 30万円, その他・交際費 10万円

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

松下幸之助記念財団「松下幸之助国際スカラシップ」
14万円/月

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

韓国国立国楽院にて外国人向けの伝統楽器体験コースでヘグム(二胡)の練習。
ソウル俳句会、ソウル東大会等の活動に参加し、学外の在韓日本人との交流を図る。

派遣先大学の環境について

①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

充実。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

図書館の自習室は24時間利用可能。スポーツ施設にテニスコート、プール、フィットネス、ゴルフ練習所等完備。
食堂は10箇所ほどある。学内どこでもwifi使用可。

留学と就職活動について

①(就職活動を既に行った場合)留学が就職活動に与えた影響、メリット・デメリットなど

②(今後就職活動を行う場合)留学が就職に対する考え方に与えた影響

③留学中の就職活動への対策など(もしあれば)

④就職が決まっている場合は、差し支えない範囲で就職先をお知らせください

- | | |
|--|--------------------------|
| | 1. 研究職 |
| | 2. 専門職(法曹・医師・会計士等)(職名:) |
| | 3. 公的機関(機関名:) |
| | 4. 非営利団体(団体名又は分野:) |
| | 5. 民間企業(企業名又は業界:) |
| | 6. 起業(分野:) |
| | 7. その他() |

留学を振り返って

①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

同年代の研究者と交流し刺激を受けた。
日本では見られない資料を調査できたり、研究書をたくさん読めた。
また、ソウル俳句会やソウル東大会を通じて学生ではない社会人と交流ができ、日本には考えられないような出会いもあった。

②留学後の予定

博士3年目。

③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。